

「人と歴史が奏でる自然豊かな やすらぎと健康のまち」を目指して

「平成19年度は『市総合計画』にもとづく
新たなまちづくりがスタート」

3月2日、市議会定例会が開催され、知念恒男市長が平成19年度の市政運営の方針や主要施策などをまとめた施政方針を発表しました。

平成19年度は、合併後満2年を迎え、さらに今後10年間のまちづくりの指針として策定された『市総合計画』に基づき、「新たなまちづくり」がスタートします。

知念市長は、本市にとって大変重要な年になるものと考え、5つの基本方針を掲げ、さらに「健康・長寿を創造し、いやしのまちづくり」をテーマに、諸政策の推進に努めてまいります。と決意を述べました。



市長 知念恒男

施政方針

はじめに

本日、ここに第19回うるま市議会定例会が開催され、平成19年度一般会計予算をはじめ、諸議案のご審議をお願いするにあたり、私の市政に対する基本方針と主要施策の概要を申し述べ、議員各位ならびに市民皆さまのご理解、ご協力を賜りたいと存じます。

まず、はじめに4市町の合併により、新市「うるま市」が誕生して満2年を迎えようとしております。

私は、就任以来、うるま市の豊かな自然と各地域で育まれてきた歴史・伝統文化を大事にし、さらに、地域の魅力を磨き、地域間の信頼関係の構築と均衡ある発展を目指して、新市建設計画に掲げる諸事業の推進に努め、新しいまち「うるま市」の確立に向けた基礎づくりに取り組んできてまいりました。

特に合併初年度から取り組んでまいりました、本市最初のまちづくりビジョンを示した「うるま市総合計画」は、これまでの施策や市政運営の基本方針を踏まえ、今後10年間のまちづくりの指針として策定しており、平成19年度は、この総合計画に基づき、「新たなまちづくり」がスタートする、本市にとって大変重要な年になるものと考えております。

この計画では、「地域の力」「環境の力」「健康の力」の3つの力が一体となり、誇りと活力を「育てる」まちづくりを基本理念に「人と歴史が奏でる自然豊かなやすらぎと健康のまち」を目指すべき将来像として掲げているところであります。

今後も、合併のメリットを十分に生かし、この計画に掲げる諸施策、諸事業を着実かつ効果的に実施することで、目標とする将来像の実現に向け全力で取り組んでまいります。

さて、国にあつては緩やかな景気回復が継続するなか、地方経済への波及の実感は乏しく、さらに、国における「三位一体改革」の影響等により、依然として、大変厳しい財政運営を余儀なくされております。

このような中で、引き続き簡素で効率的な行政を実現するために、平成18年3月に策定しました「行政改革大綱」に基づき、行政改革ならびに財政の健全化に強い決意を持って取り組み、市民福祉のより一層の向上に努めてまいります。

また、地方自治法の一部改正により、新たに副市長制度等が設置されたことともない、本市においては